

達成につながるゴール



【取組の概要】

- ・海洋汚染の原因として、街のごみが用水路、排水路、風等による移動で河川から海に漂着すると仮設建て、長野市街で捨てられているごみの調査、生徒自身の家庭から排出されるプラスチックごみの量・種類の調査を実施。
- ・インターネットを活用し、10代未満から70代の男女121人に、レジ袋使用に関わる調査を実施し、プラスチック利用の意識に関わる実態を把握。

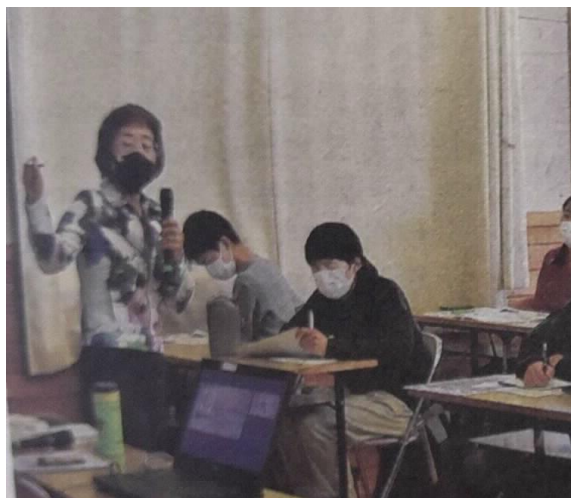
【取組の特徴】

- ・海なし県である長野県ならではの視点である「河川からの海洋汚染」に着目した取組である。
- ・ごみの調査など、自らの足で主体的に活動するとともに、検証・仮設建てにより、取組の改善を図っている。
- ・インターネットを活用し、学校関係者だけでなく幅広い世代を対象にアンケートを実施するなど、課題を的確に捉える工夫をしている。

【関連リンク】

<https://www.nagano-c.ed.jp/yashiro/>





【SDGsの学習】

研究を始めるにあたり、5月に、SDGsについて詳しく知るための講演会を企画し生徒が傍聴。SDGsの意味や持続可能な社会に向けた生活の提案などを教えていただいた。



【市街ごみの調査】

7月と10月に長野市内のごみ拾いを行い、身近にどのくらいの量のごみが落ちているのか調査。たばこなどを中心とした自然で分解されないごみが多く存在し、危機感を覚えた。

SDGs14海の豊かさを守ろう について

質問 回答 121 設定



SDGs14海の豊かさを守ろう
について

私たちは屋代高校の課題探求活動を通して、SDGs14の海の豊かさを守ろうについて、考えています。資料の一部として活用したいと思っていますので、ご協力よろしくお願い致します。

【アンケート調査】

Googleフォームを利用して老若男女121人にレジ袋の有料化について、意識調査を実施。有料化が始まる前よりも、プラスチックに対する意識が高まった方が増加した傾向にあることを確認。



【家庭ごみの調査】

家庭内でプラスチックの使用量削減や、代用品活用が可能か考えるため、活動メンバー4名の各家庭で排出されたプラスチックごみを調査。写真は、削減できそうなごみを話し合っている様子。